1931.2.17.

芝浦（しばうら）ストライキ 五号

[illegible]統一協議会 芝浦東京工場分会

ダラ幹をけとばして断然総攻撃にうつれ

[illegible]以来すでに六日、戦で今や[illegible]なるべきに、[illegible]さへ[illegible]、[illegible]ある。全員の意気は天をつかんばかりに燃えてゐるのに[illegible]

[illegible]本会ではすでに[illegible]

[illegible]部は[illegible]あるのだ。

[illegible]

[illegible]かか？[illegible]してゐる。[illegible]の兄弟はフン[illegible]ぢやないか？[illegible]

[illegible]よごした。[illegible]

[illegible]

[illegible]

対し、婦人共通の不平不満を摘発し、また婦人労働者の重要性を宣傳し、その過程にその工場に強固な連絡者を作り、又工場の人々の会合を組織し、内各工場婦人に対し茶話会、懇談会の会合を提唱しその組織を確立し、一層強化せしむるようつとめねばならぬ

パンを守り取った

俺達はパン請求の証明書を出さないでストライキを切崩そうと云ふ会社の悪らつな手段に対して断然斗争を開示し、遂ひに証明書を斗ひ取った。何事も俺達全部が一諸になってやればこの通りだ。オオオ！オオオ！

大衆的力で飯米を斗ひ取れ

米屋では俺達に米を渡すため工場の構内に山程積んである。俺達は当然その米を買取る権利がある。だがコーカツな会社はその責渡連絡を握ってゐる事をタクミに悪用し俺達の口に飯が入らぬ様防害する。これはいつもやるストラキ切崩しの常套手段、兵へ糧攻めだ。甘く見るな！

俺達はそんな事に吾々へイコラ従いとでも思ってるのか、食ふ為めには命を的にする労働者だ。一千三百の兄弟姉妹が一諸になってやれば飯米を斗ひ取る位へ何のこたあないぞ。断然飯米を斗ひ取れ。

家にまらぬようにするには（三）

議会に気をとられてゐるとあぶない。議会をよくするとか、無産党の代議士を沢山出すとかで俺達の生活がいくらかでもよくなると思ったら大変な間違ひだ。議会は大衆の目をごまかす飾り物だ。敵の本営は別にある。我々はそこを攻めなきや勝てない。議会政治が確立したから政治が俺達の利益のやうに行はれると考へるのがウソなことはかくの如くだ。狗の表面だけ見て美しい文句に感心してゐると飛んだことになる。今度の借家の一件でもそうだ。金と権力とを握ってゐる階級の支配してゐる社会では金と権力とを持たぬ者の自由はあり得ない。資本主義社会には労働者の自由はあり得ない。俺達労働者の団結の力で社会主義の社会を打ち建て、始めて本当の自由が得られるのだ。（以下次号へつゞく）